



2019年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年5月13日

上場会社名 株式会社壽屋 上場取引所 東
 コード番号 7809 URL <https://www.kotobukiya.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 一行
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 村岡 幸広 (TEL) 042-522-9810
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第3四半期の業績(2018年7月1日~2019年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	5,743	△12.7	25	△94.6	4	△99.0	△3	—
2018年6月期第3四半期	6,575	10.9	477	△21.5	428	△25.7	291	△25.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年6月期第3四半期	△1.19		—					
2018年6月期第3四半期	111.96		106.89					

- (注) 1. 2017年7月21日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っておりますが、2018年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております
2. 当社は、2017年9月26日に東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)へ上場したため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2018年6月期第3四半期までの平均株価を期中平均株価とみなして算出しております。
3. 第66期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第3四半期	7,482	2,736	36.6
2018年6月期	7,772	2,831	36.4

(参考) 自己資本 2019年6月期第3四半期 2,736百万円 2018年6月期 2,831百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2019年6月期	—	0.00	—		
2019年6月期(予想)				30.00	30.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年6月期の業績予想(2018年7月1日~2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	△6.9	250	△63.3	200	△67.5	130	△69.0	47.31

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年6月期3Q	2,748,000株	2018年6月期	2,727,300株
② 期末自己株式数	2019年6月期3Q	15,047株	2018年6月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年6月期3Q	2,742,380株	2018年6月期3Q	2,604,229株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続きましたが、米国をはじめとする政策の変更、アジアの経済動向、大規模な自然災害の発生、今後の消費税率引上げ等により依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社は世界各国の顧客ニーズに合わせた魅力ある新製品開発を行うと共に、自社IP (Intellectual Property: キャラクターなどの知的財産) による製品開発に特に注力してまいりました。

卸売販売につきましては、国内市場では2019年1月に「武装神姫」と「メガミデバイス」のコラボレーション第1弾としてメインキャラクターである「猟兵型エーデルワイス」をメガミデバイス仕様でプラモデル化し、反響を呼び、業績に貢献致しました。2019年3月には東京ビッグサイトにて「アニメジャパン2019」にイベント出展、2019年6月に劇場公開される「フレームアームズ・ガール～きゃっきゃうふふなワンダーランド」の最新情報を公開し、「フレームアームズ・ガール」関連商品が堅調に推移しました。新たな自社IPとして女性向けオリジナルキャラクタープロジェクト「Character Creation Lab.」は、ラインスタンプを発売、商品化やライセンス事業について順次展開する予定です。他社IP製品については、2018年に連載20周年を迎えた大人気コミック「シャーマンキング」より「麻倉葉」と「ハオ」を発売し、細部までこだわりぬいた造形により好評を得ました。

海外市場では、2018年7月に北米最大のアニメ・コンベンションの一つとして10万人以上を動員するイベント「アニメエキスポ2018」に出展。また世界最大のコミック、アニメ、映画等のポップカルチャーに関するコンベンションとして開催される「Comic-Con International」の中で最も多い動員を誇り、歴史と格式の高い祭典の一つである「サンディエゴ・コミックコンベンション」に出展。2019年2月には米国ニューヨークで開催される玩具、ゲーム、エンターテインメント等、約1,000社以上の企業が出展する見本市である「ニューヨーク・トイフェア」に出展、最新製品のサンプルを含めた製品の展示等を行い、世界各国へ向けた製品及びブランドアピール、プロモーションをおこないました。

また自社IP製品の「メガミデバイス」シリーズは引き続きアジアを中心に好評を得ており、地域ごとのローカライズ活動に注力してまいりました。

直営店舗、ECサイトによる小売販売につきましては、2019年3月にソーシャルゲーム「テイルズ オブ ザ レイズ」2周年を記念して開催されたイベント「テイルズ オブ ザ レイズ 大感謝祭 in コトブキヤ」が盛況な結果となり、シリーズ関連商品が好調に推移しました。小売販売事業における海外への本格的な展開として、2019年1月に中華人民共和国の最大手ECサイト「阿里巴巴集団 (アリババグループ) のECサイト「天猫国際 (TMALL GLOBAL)」に「KOTOBUKIYA海外旗艦店」を出店し、中国本土への認知度の向上を図りました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、自社IP製品の上記取組みを積極的に行いましたが、前年同期におけるアニメ「フレームアームズ・ガール」関連商品の売上には及ばず、売上高は5,743,100千円(前年同期比12.7%減)、営業利益は25,881千円(前年同期比94.6%減)、経常利益は4,142千円(前年同期比99.0%減)、四半期純損失3,269千円(前年同期は291,566千円の四半期純利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の総資産は7,482,156千円となり、前事業年度末に比べ290,646千円(3.7%)の減少となりました。

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は3,694,943千円で、前事業年度末に比べ175,467千円(4.5%)減少しております。現金及び預金の増加308,547千円があった一方で、売掛金の減少552,804千円があったことが主な要因であります。

(固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は3,787,213千円で、前事業年度末に比べ115,179千円(3.0%)減少しております。建物の減少93,278千円、その他に含まれる工具、器具及び備品の減少23,367千円があったことが主な要因であります。

(流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は1,512,916千円で、前事業年度末に比べ166,652千円(9.9%)減少しております。買掛金の減少43,398千円、未払法人税等の減少135,090千円があったことが主な要因であります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は3,232,855千円で、前事業年度末に比べ29,085千円(0.9%)減少しております。退職給付引当金の増加5,892千円、役員退職慰労引当金の増加7,375千円があった一方で、長期借入金の減少52,381千円が主な要因であります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は2,736,384千円で、前事業年度末に比べ94,908千円(3.4%)減少しております。配当金の支払い81,819千円、四半期純損失3,269千円を計上したことにより利益剰余金が減少したことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2019年2月13日の決算短信で公表いたしました業績予想に変更ありません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,492,016	1,800,564
売掛金	1,077,627	524,823
商品及び製品	588,540	550,904
未着品	27,616	26,874
仕掛品	290,556	275,267
貯蔵品	5,484	4,493
未収還付法人税等	—	116,667
その他	481,398	488,178
貸倒引当金	△92,830	△92,830
流動資産合計	3,870,410	3,694,943
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,215,658	2,122,379
土地	708,408	708,408
その他(純額)	403,454	371,066
有形固定資産合計	3,327,520	3,201,854
無形固定資産	101,837	101,782
投資その他の資産	473,034	483,576
固定資産合計	3,902,392	3,787,213
資産合計	7,772,803	7,482,156
負債の部		
流動負債		
買掛金	332,555	289,157
短期借入金	400,000	400,000
未払法人税等	135,090	—
賞与引当金	47,588	48,925
ポイント引当金	81,602	47,284
その他	682,732	727,548
流動負債合計	1,679,569	1,512,916
固定負債		
長期借入金	2,926,609	2,874,228
退職給付引当金	88,686	94,578
役員退職慰労引当金	195,650	203,025
資産除去債務	15,112	20,219
その他	35,883	40,804
固定負債合計	3,261,940	3,232,855
負債合計	4,941,510	4,745,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	434,590	440,458
資本剰余金	397,090	402,958
利益剰余金	1,999,612	1,914,524
自己株式	—	△21,557
株主資本合計	2,831,292	2,736,384
純資産合計	2,831,292	2,736,384
負債純資産合計	7,772,803	7,482,156

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
売上高	6,575,658	5,743,100
売上原価	4,223,921	3,909,764
売上総利益	2,351,737	1,833,336
販売費及び一般管理費	1,873,835	1,807,455
営業利益	477,901	25,881
営業外収益		
受取利息及び配当金	336	429
受取手数料	1,447	1,057
為替差益	2,047	—
補助金収入	2,792	6,242
保険解約返戻金	991	1,120
その他	1,338	1,661
営業外収益合計	8,952	10,511
営業外費用		
支払利息	34,851	31,392
株式公開費用	13,200	—
株式交付費	6,409	—
為替差損	—	199
その他	4,197	657
営業外費用合計	58,658	32,250
経常利益	428,195	4,142
税引前四半期純利益	428,195	4,142
法人税、住民税及び事業税	169,234	933
法人税等調整額	△32,605	6,477
法人税等合計	136,629	7,411
四半期純利益又は四半期純損失(△)	291,566	△3,269

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(ポイント引当金)

ポイント会員に付与したポイントの利用に備えるため、従来、会計期間末におけるポイント残高の全額を利用見込額として、ポイント引当金に計上していましたが、失効ポイントの実績が新たに把握可能となったため、当第3四半期会計期間より、ポイント残高から失効ポイント見込額を控除した金額を計上する方法に変更致しました。

これにより、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益が、それぞれ33,682千円増加しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

当社の報告セグメントはホビー関連品製造販売事業のみの単一であるため、記載を省略しております。